

「家庭での節電に関するアンケート調査結果」

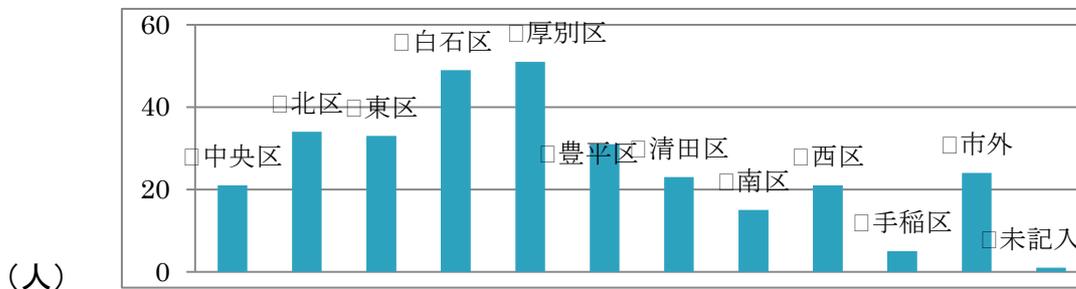
一般社団法人 札幌消費者協会 環境研究会

◆ アンケート方法について

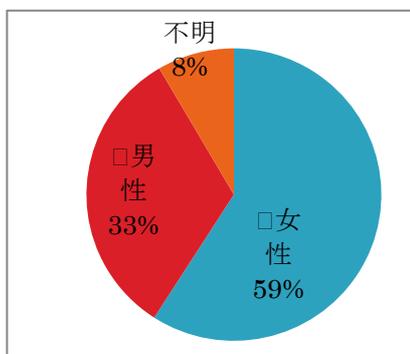
- ◇ アンケート実施期間 : 平成 24 年 7 月 27 日～29 日
- ◇ アンケート用紙 : 別紙 1
- ◇ アンケート方法 : <環境広場さっぽろ 2012>当協会ブースにて アンケート用紙を手渡して記入してもらう。
- ◇ アンケート総数 : 308 件 (有効アンケート数 308 件)
- ◇ アンケートの目的 : 節電に関する市民の意識や実践している対策等についての項目を設定し、アンケートを実施。今後の節電・省エネについての啓発活動や講座、また、さまざまなイベントでの情報提供等の参考にしたい。

◆ 調査結果

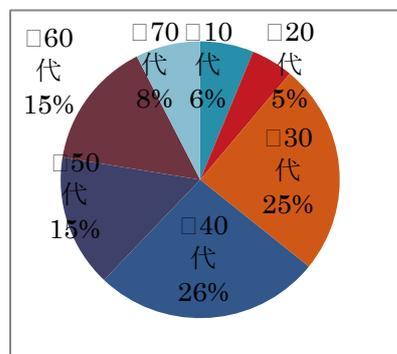
◇ 居住地



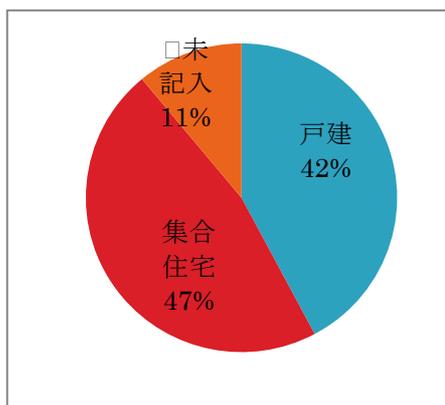
◇ 男女別



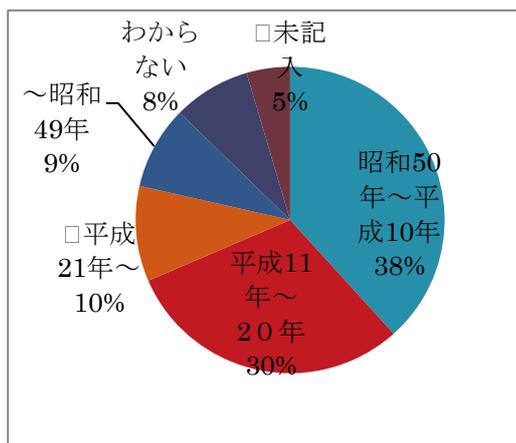
◇ 年代別



◇ 住居形態

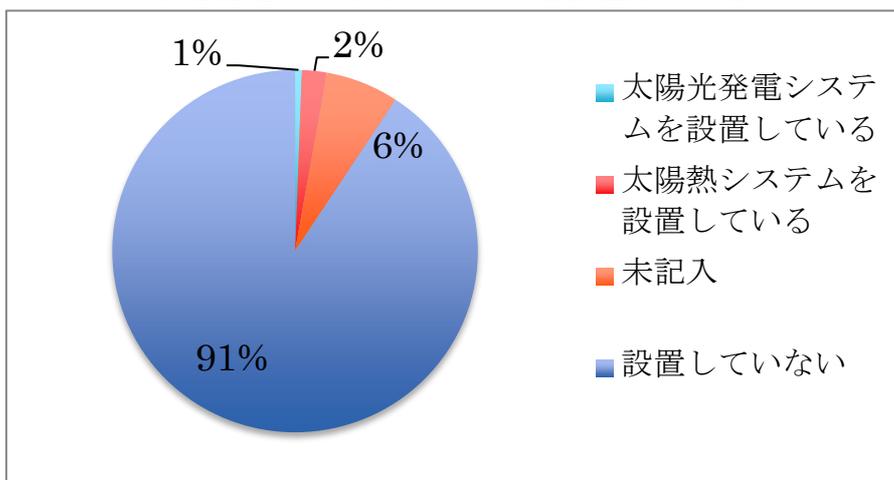


◇ 築年代

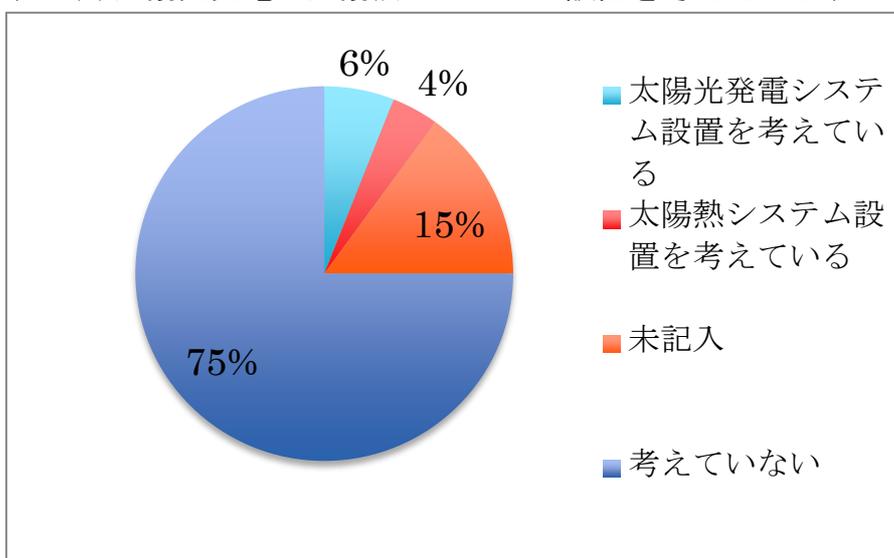


◆太陽光発電または太陽熱システムの設置について

◇ (A) 太陽光発電・太陽熱システムを設置していますか

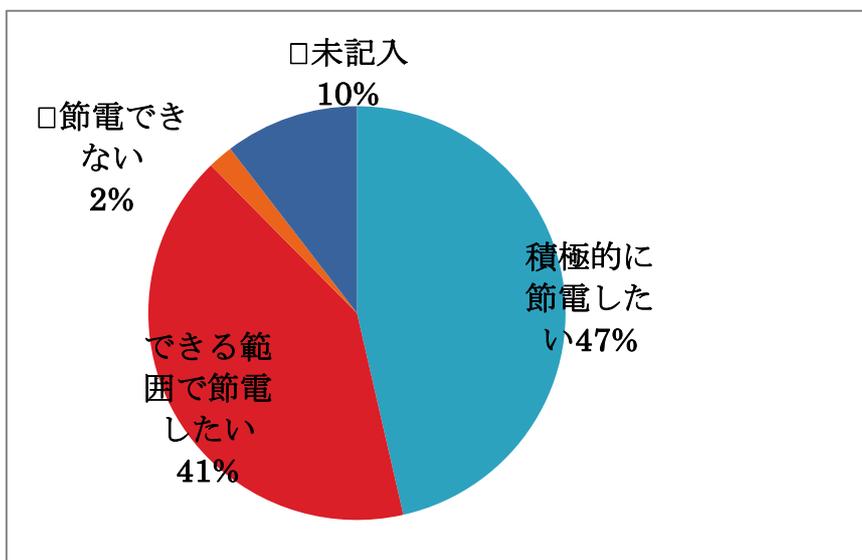


◇ (B) 太陽光発電・太陽熱システムの設置を考えていますか

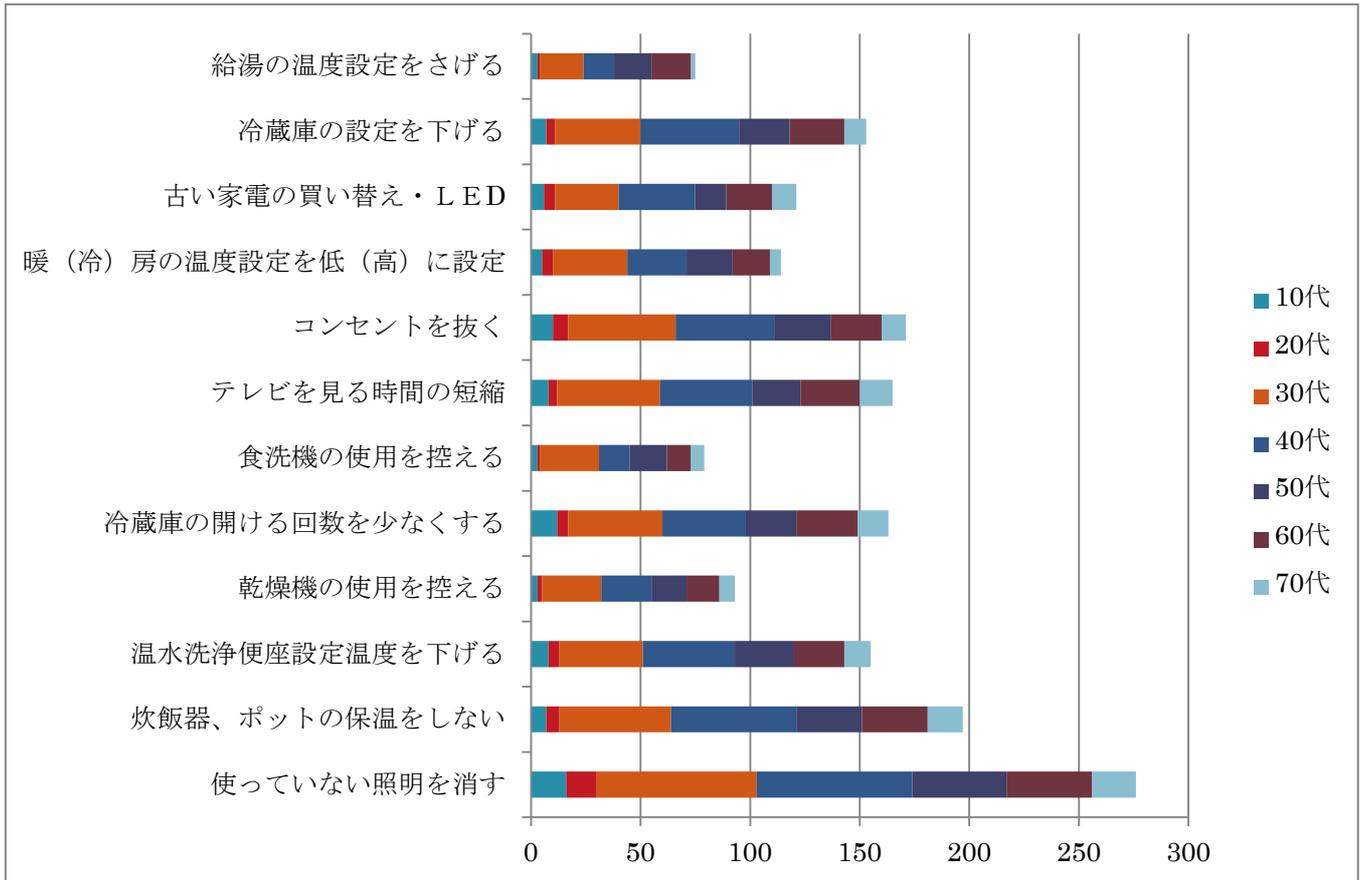


◆ 節電への意識

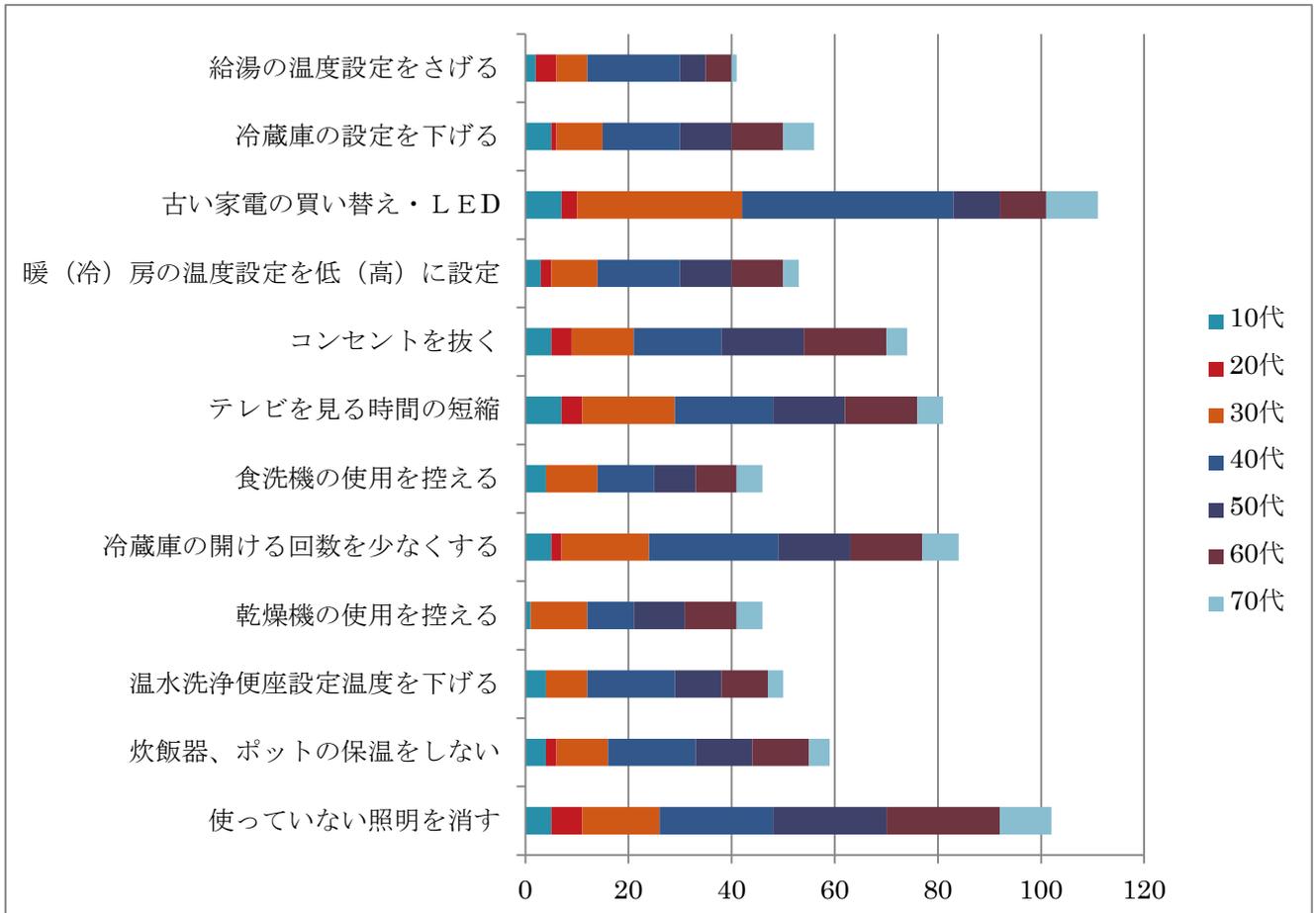
◇ 積極的に節電したいですか



◇ 今実行している節電方法は？（複数回答 人）

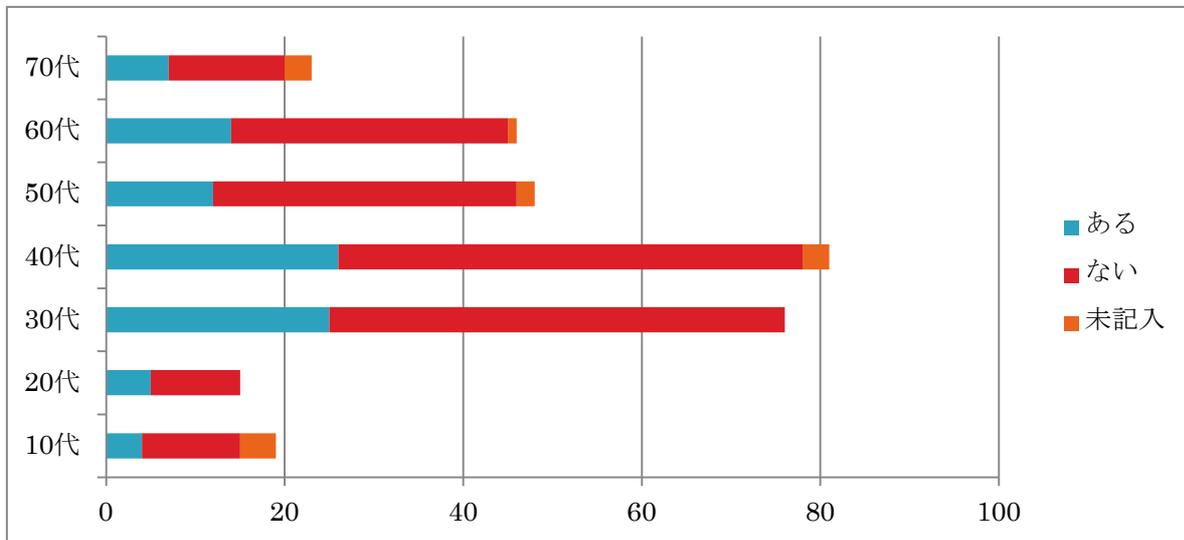


◇ これから実行しようとしている節電方法は？（複数回答 人）

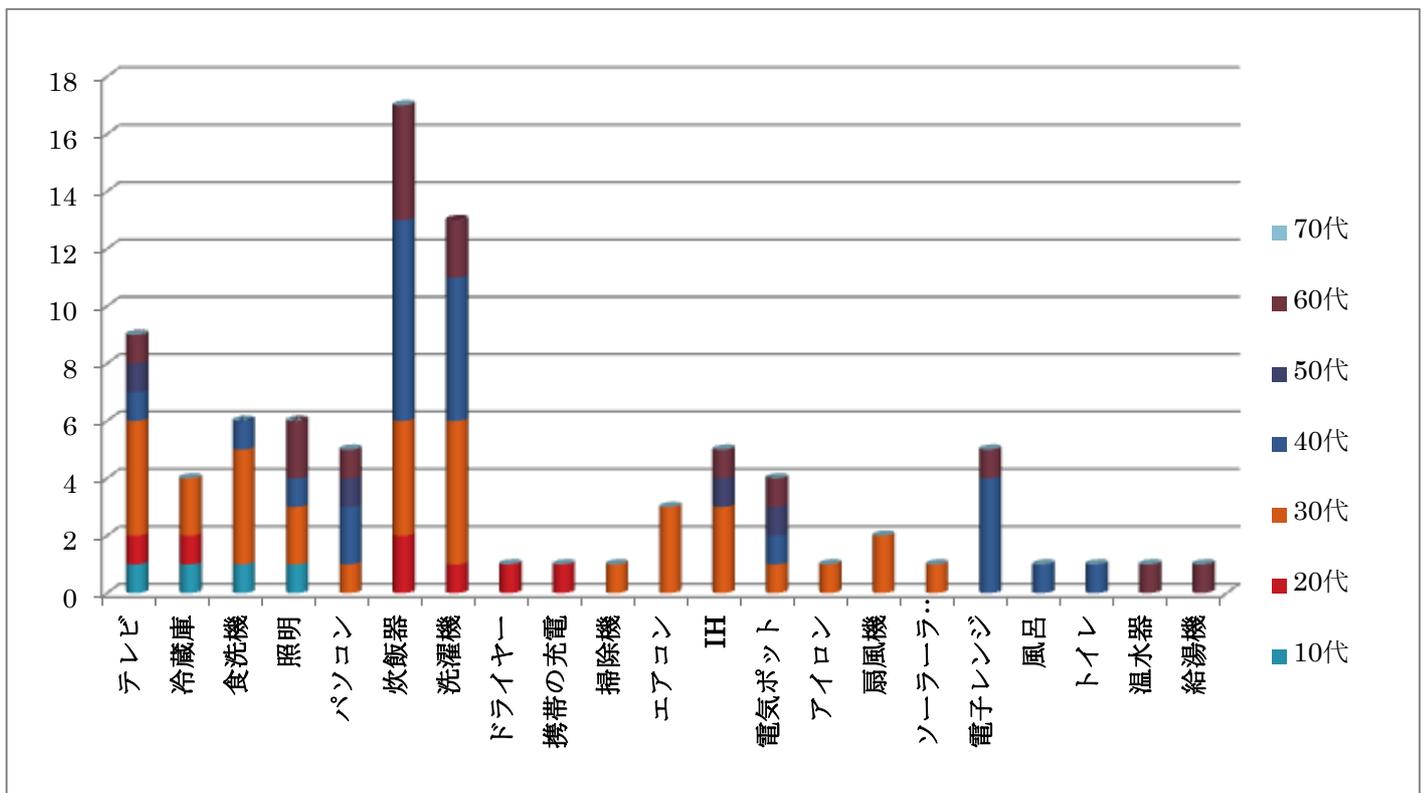


◆ 夕刻の電気機器の使用について

◇ 18時～20時での使用を控える、あるいは他の時間帯へ変更可能な電気機器はありますか？（人）



◇ 「ある」と回答した方が対象としている電気機器（複数回答 人）



◆ アンケートの結果とまとめ

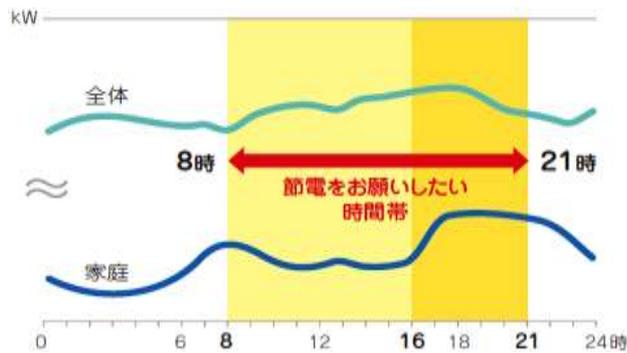
- ・場所が白石区のアクセスサッポロでの「環境広場さっぽろ」ということで、近隣の厚別区・白石区・豊平区が43%と多く、市外も8%あった。
- ・年代では40代が1番多く26%、次に30代、50代、60代、70代が続き、20代は10代よりも少なかった。30代、40代は子供など世帯当たり人数が多い事や、持ち家取得年代として30代後半から40代前半が最も多いことから住宅や暖房・給湯の設備等、省エネ全般に関心があると考えられる。
- ・住居は<戸建て>が42%、<集合住宅>が47%。
- ・住宅の省エネ基準が強化された平成11年以降に建築された住宅が40%。
- ・<太陽光発電システム設置>は0.6%、<太陽熱システム設置>は2.3%。
- ・<太陽光発電システム設置を考えている>が5.5%<太陽熱システム設置を考えている>が4.2%。
- ・<節電をいつも意識している>が50%、<時々意識している>が40%で合計90%。
- ・<積極的に節電したい>が46%、<出来る範囲>が41%、合計87%。
- ・今、実践している節電方法はもっとも多いのが<使用していない照明を消す>90%、<炊飯器・ポットの保温をしない>64%、<使用していない家電のコンセントを抜く>56%、<テレビを観る時間の短縮>54%、<冷蔵庫の開閉の回数を減らす>53%、<温水洗浄便座の温度設定を下げる>50%、<冷蔵庫の設定温度を変える>50%、<古い家電の買い替え・LEDへの買い替え>39%、<暖房温度の設定を下げる>37%、<乾燥機の使用を控える>30%、<食洗機の使用を控える>26%、<給湯の温度設定を下げる>24%。
- ・これから実践しようとしている節電方法では<古い家電の買い替え・LEDへの買い替え>36%、<使用していない照明を消す>33%、<冷蔵庫の開閉の回数を減らす>27%、<テレビを観る時間の短縮>26%、<使用していない家電のコンセントを抜く>24%、<炊飯器・ポットの保温をしない>19%、<冷蔵庫の設定温度を変える>18%、<暖房温度の設定を下げる>17%、<温水洗浄便座の温度設定を下げる>16%、<乾燥機の使用を控える>15%、<食洗機の使用を控える>15%、<給湯の温度設定を下げる>13%。
- ・18時~20時の時間帯から他の時間帯への使用時間の変更可能な家電については、<ある>が30%、<ない>が66%。
- ・18時~20時から他の時間帯への使用時間の変更可能な家電がある(93人)と答えた家電名(複数回答)は<炊飯器>17人、<洗濯機>13人、<テレビ>9人。

- ◎ 北海道の住宅は全国平均のおよそ2倍、戸建てが集合住宅のおよそ2倍のエネルギーを消費している。しかし北海道のオール電化住宅は6%と少なく、80%が灯油暖房のため節電のために暖房の設定温度を下げるという意識はあまりないといえる。灯油暖房でも殆どが電気で制御しているので室温の設定を下げ、就寝時には停止するなど、有効な節電策となる。

太陽光発電システムについては全国平均の3.6%よりかなり低く0.7%であったが、24年度の設置が駆け込みでかなり増加することが考えられる。再生可能エネルギーの買い取り価格は毎年見直され、実質の導入価格が値下がりすれば買い取り価格も下がることになるので現在の高価格買い取りは太陽光発電システム設置の追い風になっている。

札幌市の既設の住宅については80%が無落雪屋根なので新築・リフォーム共にシステム設置が高コストになるので今後、工法等検討が必要と思われる。

節電へは 90%が意識し、これからも節電したいが 87%と年代に関わらず多い。しかし、夕刻の 18 時～20 時の時間帯では 66%が<家電の使用時間帯の変更は出来ない>と答えている。北電の節電要請は下記のように、冬期の家庭では 8 時～21 時となっている。



出典：資源エネルギー庁

北海道電力株式会社 HP より

特に、18 時～21 時では家庭での消費電力は多くなるが殆どの家庭では冬の夕刻に照明、電気炊飯器、ポット、テレビ、暖房等、多くの家電を使用するライフスタイルを急に変えることは難しいと思われる。<変更出来ない>と答えた 66%の家庭に対しては同じような使用法でも節電になる様な細かな対策法の情報提供やアドバイスするシステムが有効考えられる。又、消費電力と電力量をチェック出来る機器もあるので、自分がどのくらい電気を消費しているのか理解しすることで電気の無駄使いを積極的に減らすことにつながる。さらに古い家電については節電のみならず安全性の面からも点検が重要。

夕刻の節電に有効な方法としてはガスコンロがある場合、電気炊飯器からガスでの炊飯に変えると、省エネ効果はあまり期待できないが節電には大きく寄与する。テレビについては、必ず省エネモードする、音量を必要以上に大きくしない等、又パソコンについても省エネモードにする、1 時間 30 分程度で再使用するのであればスリープにする（各メーカーの HP に掲載されているので是非チェック）等で節電効果がある。また時間変更できると答えた機器では炊飯器の次に洗濯機が多い。日中、家にいる場合は 10 時～16 時に、居ない場合は早朝に洗濯の時間を変更する、出来るだけまとめて洗う、乾燥機の使用を控える等は節電になる。

北電の電力供給のおよそ 8 割が火力によるもので、私たちは無駄に電気を使うライフスタイルを見直し、節電＝省エネ＝地球温暖化防止であると認識すると共に、家計の節約にもなると考え、積極的に節電に取り組んでほしいものである。